

前橋市立図書館だより



English Speaking Society

前橋女子高校ESS部と

前橋こども図書館のつながり



ブックカバーで
もっと本を楽しもう

■ 富士見分館で開催

手芸家・南部美恵子さんを講師に招き、布製ブックカバーを作ります。自分で作ったブックカバーをつけて本を読めば、読書の時間がより充実した時間になります。今回は手芸の初心者でも簡単に作れるブックカバーを紹介します。自分の好きな布を用意して、世界で一つの自分らしいブックカバーを作りましょう。

日時＝3月17日(火) 午前10時～正午

会場＝市立図書館 富士見分館 ボランティア支援室

対象＝どなたでも、先着20人

参加費＝100円(材料費として)

用意する物＝布(20cm×40cm以上のもの)、針、白と黒の糸、鉛筆かチャコペン。次の物はあれば持参：ものさし(30cm以上のもの)、布切りばさみ、カバーをかけたい文庫本

申し込み＝市立図書館本館へ電話(☎027-224-4311)で



図書館富士見分館

富士見町田島240

(富士見支所敷地内)

WORKSHOP

休館日 祝日の場合は開館し翌日休館

前橋市立図書館本館、上川淵・下川淵・桂萱・総社・元総社・総合教育プラザ・南橋・大胡・富士見分館

月曜

城南・東・芳賀・清里・宮城・粕川分館

木曜

前橋こども図書館

第4水曜



本館利用案内・フロアガイドを新調しました
当館所蔵の『ケンタウロス』が表紙。来館時にお持ちください



一年が過ぎるのはなんて早いのでしょうか。もう転勤や卒業の季節となりました。昨年4月に館長に就任して手探りで一年でしたが、図書館として本の貸し借りだけでなく、海外留学説明会や出会いの場をつくる「恋活」など、さまざまな事業を手掛けられました。4月からも新しいことにチャレンジしていきます。

館長
伊井直文の
つぶやき

東京2020オリンピック・パラリンピックの開幕が7月に迫りました。前橋市では3月31日(火)に群馬県庁からグリーンロード前橋まで、聖火ランナーが街を走ります。当初は東日本大震災からの「復興五輪」と言われていましたが、その理念から少し遠のいてしまっている感じもあります。未曾有の大震災からもうすぐ9年。今では3月11日の前後に、特番でしか扱われなくなってしまった被災地の状況や街の復興の様子。聖火リレーなどを映すメディアを通じて、復興の様子が多く映し出され、みなさんの心に残るものであります。この地で多くの人が亡くなられたことを改めて心に刻むためにも、みなさんと共に3月11日と東京オリンピックを迎えたいと思います。令和になり初めての3・11を前に。(狩野)

編集よもぎま話

新刊案内

『ジャーナリズムなき国の、ジャーナリズム論』

大石泰彦著 彩流社

権力を監視するはずが、逆に権力から実効的に監視されている。こんなメディアに果たしてどのくらいの存在意義があるのか。日本の特異な報道のあり方を分析し、その根底にある矛盾を浮き彫りにする



NEW

『国籍の?がわかる本』

日本人って誰のこと?外国人って誰のこと?

木下理仁著 太郎次郎社エディタス

ハーフの人の国籍はどうなるの?「日本人」力士と「日本出身」力士の違いって?人に聞いてもよく分からない「〇〇人」と国籍をめぐる疑問に答える本。クイズも掲載

『50代、足していいもの、引いていいもの』

岸本葉子著 中央公論新社

体力に合わない重い鍋とはさようなら。掃除はこまめに小さくすませる。服は着心地の良いものだけを。50代の日々を綴る。「くらしの知恵」ほか掲載エッセイを書籍化

前橋市立図書館
JP-1000546

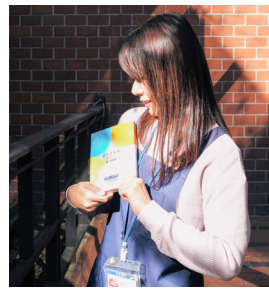
図書館だより 第359号 令和2年3月発行
〒371-0026 前橋市大手町二丁目12番9号
TEL 027-224-4311 FAX 027-243-1877



WEB
SITE

蔵書検索
調査相談
利用案内





私のおすすめの一冊

前橋市立図書館
司書 志村 供美

『道なき未知』

森 博嗣著 ベストセラーズ

森博嗣氏の「あるいた道」と「創造的思考」が書かれた一冊です。聞えよがしになるかもしれませんが、読み進めていくと「すべての人が森氏のような道を受け入れて、生きていけるわけではない！」と私は否定してしまいました。ですが、なんだか笑えてホッとして、気づけば肯定している自分がいました。まさに飲み込まれていったという心境に至ります。それはきっと、著者の素直さゆえにストレートな言葉で書き綴られているためでしょう。著者自身が「どうありたいか」「どういられるか」という心を底までおしきわめたこのエッセイは、人の価値を作り上げているもの、生きている証拠、人生という道の先にある「道なき未知」の思考と行動についてどうあるべきかヒントを与えてくれています。本の構成はコンパクトな章立てになっているため、森氏の思考に対して抱いたことを自分の心と引き合わせながらじっくりと読み進めるもよし、本を読む時間がなかなかとれないという人にはコンパクトな章立ての魅力でサクッと読んで取り入れるもよし、新生活がはじまるこの時期にすすめたい一冊です。

本館ではインターネット が使えるようになりました

市立図書館本館にインターネット利用パソコンが2台入りました。利用時間は一人30分まで。利用する際は、1階・2階の各カウンターで利用申請をしてください。



TOPIC



前橋こども図書館



絵本読み聞かせイベントなど詳しくは同館ウェブサイトをご覧ください。
☎027-230-8833

● 新小学一年生おはなし会 「一年生になるんだもん！」



萌えぎの会が、新小学一年生に向けた絵本や紙芝居、パネルシアター、手遊びなどを行います。
日時＝3月14日(土) 午前11時～正午
対象＝新小学一年生、どなたでも
※事前申し込みは不要。当日同館へ直接

EVENT

● 春のこどもフェスティバルおはなし会

たこさんのおはなしやが、絵本の読み聞かせや紙芝居、手遊び、歌などを行います。
日時＝3月26日(木) 午前11時～正午
対象＝どなたでも
※事前申し込みは不要。当日同館へ直接



● 本の福袋「〇〇袋」

テーマと年齢に沿った本を図書館スタッフと公募の市民が選び、3冊と5冊のセットに。そのセットを袋に入れ、中身がわからない状態で貸し出します。
期日＝3月26日(木) から(なくなり次第終了)



EVENT

進行役は当館の
船津です

邦楽ならどのような曲でも歓迎。
私は「サザンオールスターズ」の40年来の大ファンです。

おしゃべりプロ 今回のテーマは「邦楽」

テーマに沿って本を紹介し、参加者同士で語り合うおしゃべりプロを開催します。今回のテーマは「邦楽」です。本の紹介者とギャラリ（観覧者）を募集します。なお、本の紹介者は邦楽と聞いて思い浮かぶ本を一冊持参してください。ジャンルは、雅楽、J・P・O、演歌など、何でも大丈夫です。紹介時間は1人5分程度です。
日時＝3月12日(木) 午後1時30分～午後3時
会場＝市立図書館本館 3階視聴覚室
対象＝《本の紹介者》先着10人
《ギャラリ》先着20人
申し込み＝同館へ電話(☎027-224-4311)で



前橋女子高校と
こども図書館

図書館で地域社会へ飛び出す

▼前橋女子高校の伝統ある部活動・ESS部。英語でのディスカッションなどを通して英語に親しんでいる。
ESSは「English Speaking Society」の略称

INTERVIEW

前橋こども図書館で毎年開催している「英語のおはなし会」。これは5年程前に前橋女子高校ESS部の生徒の発案により、スタートしました。理念は後輩に引き継がれ脈々と続きます。

「絵本」で子どもたちに届ける英語の楽しさ

オリジナルの企画で子どもたちに絵本の読み聞かせを行う「英語のおはなし会」。読み聞かせやクイズに使う教材のイラストは、前橋女子高校ESS部生徒の手作りです。
「昨年は先輩がやっているのを会場で見えました。すごいなと思ったのは、子どもたちとの距離のとり方です。先輩たちは自分から子どもに話しかけて、興味を引き出していました。私たちもそうできるように心がけたいです」と話す部長の星野彩那さん。2年生部員6人で2月29日に前橋こども図書館で行う「英語のおはなし会」のために、11月から準備を行ってききました。英語と日本語翻訳を織り交ぜて読み聞かせをするには、話し手同士の連携が重要になります。



ALTのクリス セプト先生はいつも明るく、「英語は楽しいもの」という気持ちを生徒に伝えている。顧問の柴山光先生と連携してESS部を支える

ESS部の活動は週2回。英語で行うディスカッションではイギリスBBCニュースから生徒たち自身がテーマを選び、そのニュースについて話し合う。生徒の英語力に合った英文になるようALTのクリスセプト先生が適切にサポートしています。顧問の柴山光先生は「学校の中で行っている部活動を地域に広げ、色々な人と交流をすることは生徒の成長にとって欠かせない」と考えています。英語のおはなし会スタートのきっかけは、当時の部長が作った企画書。部活での学びを学校外に広げようと生徒自らが作った企画書は学校長に提案され、それを校長も快く後押し。前橋こども図書館と連携して開催することになりました。学校での学びと地域での学びをつなぎ、それを子どもたち還元していくことは図書館としても重要な機会です。

英語を学ぶ経験は、生徒たちを夢の実現に導きます。部長の星野さんは「看護師として海外でも活躍したい」、副部長の福島着唯さんは「経済を学び、グローバルな視点を持ちたい」、会計の品川泰羅さんは「英語も数学もできる多才な教師になりたい」、書記の佐藤沙織さんは「司法の世界で活躍したいので英語が必要になる」と英語を学ぶ意義を自身たちの中に見い出しています。

